

平成 16 年 4 月 27 日  
株式会社 新生銀行  
(コード番号: 8303 東証第一部)

## 情報セキュリティ管理システム(ISMS)の認証取得について ～ 国際規格「BS7799」および国内規格「ISMS 認証基準」を同時取得 ～

新生銀行は、このたび、当行の情報システムを担うシステム企画部の全業務に関し、情報セキュリティ管理システム(以下 ISMS:Information Security Management System)の国際的な規格「BS7799-2」(\*1)および国内規格「ISMS 認証基準」(\*2)を同時に取得しました。

近年、情報セキュリティに対する関心が高まっておりますが、当行では従来より情報システムの中核を担うシステム企画部において、技術的、人的セキュリティ対策を実施してまいりました。このたびの認証取得は、情報セキュリティ面において国際水準で適切な管理体制を確立・運用していることが第三者機関によって認められたものです。

当行では、今回の認証取得を機に、今後とも広く社会の要請と信頼にお応えするため、セキュリティ対策への取り組みを一層強化し継続してまいりたいと考えています。

認証取得の概要は次のとおりです。

### 【認証取得の概要】

事業所:	新生銀行システム企画部(注)		
認証規格:	BS7799-2;2002 および ISMS 認証基準(Ver.2.0)		
認証登録番号:	BS7799-2;2002	IS80706	
	ISMS 認証基準(Ver.2.0)	IJ00778	
認証日:	2004/3/24		
審査登録機関:	BSI ジャパン株式会社 (*3)		
認定機関:	BS7799-2;2002	英国認定機関(UKAS) (*4)	
	ISMS 認証基準(Ver.2.0)	財団法人 日本情報処理開発協会 (JIPDEC) (*5)	

(注)新生インフォメーション・テクノロジー株式会社(当行 100%出資子会社)も実質的に認証対象として認定されています。

【用語説明】

\*1 BS7799

BSI(英国規格協会:The British Standards Institution)が制定した規格であり、組織の情報セキュリティ管理や手順のグローバルスタンダードとして高い注目を浴びています。Part1(効果的なISMSを実施するための規範)とPart2(認証を得るための規格)の2部構成となっており、Part1は2000年12月にISO化され、Part2は2002年の改訂が最新バージョンです。

\*2 ISMS 認証基準

財団法人日本情報処理開発協会が、BS7799を原案として、2002年4月から本格運用を始めた情報セキュリティ管理システムに関する認証基準。2003年4月の改訂が最新バージョン(Ver. 2. 0)。

\*3 BSIジャパン株式会社

1998年9月に設立された、英国規格協会(BSI)出資の日本法人。BS7799、ISO14001、ISO9001の審査登録業務を行っている。BSIは、1901年に貿易産業省の支援を受けて設立された世界で最も古い歴史を持つ英国の規格協会であり、ISO17799の他にもISO9001やISO14001等ISO規格の原案となった規格を多数作成したことで世界的に有名です。

\*4 英国認定機関(UKAS:The United Kingdom Accreditation Service)

BS7799の審査登録機関の適正を認定するために英国政府が認めた唯一の国家機関。

\*5 財団法人日本情報処理開発協会(JIPDEC)

1967年に設立された経済産業省所管財団法人で、ISMS適合性評価制度の審査登録機関の適正を認定しています。